

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>1 学習指導</p> <p>ア 授業の質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング推進校であった成果を活用し「考える」授業を推進する。 ・ICT機器を使った授業を工夫・研究して、授業理解に活用する。 ・ALCM コミュニティ指定校として、研究授業や授業公開に取り組む。 <p>イ スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて基礎学力の向上を図る。 ・毎回の小テストや自宅学習の工夫で「自発学習」を習慣づける。 ・基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に受験させる。 <p>ウ 年間を通じての学習指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。 ・社会体験実習を推進し、マイレージを伸ばさせると共に主体性・協調性を高めさせる。 ・「みのりゼミ」や講習会、オンライン英会話等、伸びる生徒には負荷をかけて、ワンランク上の学びを促す。 ・オンライン学習を実施し、不測の事態にも対応できるよう環境を整備していく。 	<p>学習内容が理解できているか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が82%であった。解ったと感じる場面があるか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が85%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が機器を使用した授業を実施している。 ・公開研究授業等開催できず、コミュニティ参加校とは、紀要の提供にとどまった。 ・教材の工夫など解り易い授業か、の問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が44%に低下した。 ・基礎力診断テスト(2年生)では、入学時には中学生としての学力が身につけている割合が30%未満だったものが、2年間で半分以上が高校生段階の理解ができるようになった。また、1年生では英語での伸びがとて顕著であった。 ・校内実施の外部模試も受験者が延べ300名を超えた。 ・検定対策講座を適宜実施し、英検では2級7名、準2級21名が合格、漢検では2級7名、準2級25名が合格し、昨年度並みであった。 ・社会実習は12回実施した。 ・長期休業中の補習を組織化し、55講座実施したが、みのりゼミは4講座に増加した。 ・オンライン学習は、全教員で2回実施した。 	4
<p>2 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立するための再点検を行う。 ・個々の生徒に対応できるシステムを模索する。 <p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次のキャリア教育により、社会の中での自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポート（仲間同士の支え合い）による学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。 ・キャリアパスポートとしてe-ポートフォリオを活用して、生徒自らが自立した進路活動ができるよう支援する。 <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させ、将来設計につなげる。 ・ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 ・自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。 	<p>ア 卒業生176名。進路決定率は71.6%であった。内訳は、大学75名、短大6名、専門学校28名、就職・各種学校17名、その他であった。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びあい学習など、コミュニケーション学習に取り組んできたが、接触防止の観点から十分取り組めなかった。ICT機器を使用した実践も開始している。 ・e-ポートフォリオの活用を促したが、活用は十分とはいえず、年次ごとにばらつきがある。 <p>ウ ボランティアは地域から深く感謝されており、地域①の81%が「地域ボランティアに参加して欲しい」と回答した。感染症対策からボランティア受け入れ先が減少し派遣に苦慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携は、従来のレベルにとどまった。 ・地域の10%がマナー指導は十分ではないと回答した。地域との交流が必要である。 	5
<p>3 生徒指導</p> <p>「自他のチャレンジを尊重する」を合言葉に、組織的な生活指導を推進する。</p>	<p>3 生活指導で大きな乱れはないが、生徒の自主性の涵養が必要となっている。</p>	4

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>ア 安心安全な学校を創るとともに、いじめや体罰を根絶する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神で、他人のチャレンジを邪魔しない意識の育成。 <p>イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイム制により、自律的なスケジュール管理の力を育てる。 ・全校で「笑顔で挨拶」を励行する。 ・校服の正しい着用（特にスカート丈）と身だしなみ指導の推進。 ・コミュニケーション力を向上させ社会で活動するためのマナー身に付けさせる。 <p>ウ 文化祭、みのり杯等の行事を、社会情勢に合わせて実施する。</p> <p>エ 生徒の自主性を育てるHR活動や生徒会活動を推進させる。</p> <p>オ 部活動や委員会活動を振興して、校内の雰囲気活性化を促す。</p> <p>カ 部活動、委員会活動への参加を促し、コミュニケーション力を身に付けさせる。オリンピック・パラリンピック教育を通じ、国際理解や異文化理解について取り組み・継続していく。</p>	<p>ア いじめや類似行為は、統計ではでなかったがSNSでのトラブルは散発しており、指導に取り組んでいく。・授業規律を守らない生徒への指導があるか、問に対して「あてあまる」「ややあてはまる」が86%。・「自他のチャレンジを尊重する」を絶えず伝え、指導を繰り返して生徒に浸透させてきた。</p> <p>イ 遅刻は、1日あたり1.3人であった。・挨拶はするようになってきているが、まだ十分とはいえない。・校服の着こなしは、ほぼできているが、今後は生徒との対話が必要である。</p> <p>ウ みのり杯は分割状態だが実施できた。文化祭は、校内限定で実施し、生徒の活力は維持できた。</p> <p>エ 生徒会の自主性を育てるため、制服の在り方や目安箱の工夫などに取り組んだ。</p> <p>オ 部活動の参加率は約35%にとどまったが、バレーボール部など全国大会に進出した部活動もあった。</p> <p>カ オリンピック・パラリンピックの見学は中止となった。</p>	3
<p>4 教育相談・保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能（スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等）を向上させる。</p> <p>イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する生徒の支援を行う。</p> <p>ウ いじめの未然防止と早期発見に組織的に努める。</p> <p>エ 体育や部活動を通して、スポーツの楽しさと健康管理の大切さを知る機会を設ける。</p>	<p>4</p> <p>ア 教育相談部を設立し、外部専門家等を管掌させ課題の一元管理を行って問題の早期解決、全校体制での取り組みに努めた。</p> <p>イ 個々のケースごとに対応しているが、個々の生徒の課題には十分対応できてはいない。</p> <p>ウ いじめと認定する事案は発生しなかった。</p> <p>エ 部活動の再開は参加生徒の意識向上にむすびついた。</p>	4
<p>5 募集・広報活動</p> <p>ア 各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める。</p> <p>イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善に活用する。</p> <p>ウ Webページを充実させ、中学校や適応指導教室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫する。</p> <p>エ NPO等と連携して、本校における教育活動の理解啓発を行う。</p>	<p>5</p> <p>ア・イ 学校説明会等の参加者は2000名を超えた。とくに隣接の区立中学校65校には直接訪問して、詳細な説明を行った。</p> <p>ウ HPを随時更新して本校の取組を発信するとともにツイッターも頻繁に更新した。とくに来校できない入学希望者や保護者に対して教育の取組を動画や静止画、コメント等様々な形で掲載して情報発信に努めた。応募倍率は1.2倍であった。</p>	3
<p>6 地域交流、ボランティア活動、防災</p> <p>ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域の関係機関との連携を強化する。</p> <p>イ 防災訓練など地域との交流活動をより一層推進するなど、ボランティア活動を活性化させる。</p> <p>ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る。</p>	<p>6</p> <p>ア 地域で開催される行事や会合には(中止等で)、残念ながら参加できなかった。</p> <p>イ ボランティアは一部の派遣にとどまった。しかし、ボランティア部がマスク作成・寄贈などに取り組んだ。</p>	2

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>エ 災害に備えた校内体制を整える。(学校安全・防災対策委員会)</p> <p>オ 震災を想定した防災訓練及び準備と検証を行う。</p> <p>7 経営企画室</p> <p>ア 教員との連携を強化し、経営参画型の企画室を構築する。</p> <p>イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画を具現化する。</p> <p>ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映する。</p> <p>8 環境整備担当</p> <p>ア 清潔で安全な学校環境を維持整備する。</p> <p>イ ゴミの分別指導や共通部分の清掃を徹底する。</p> <p>ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する。</p> <p>9 図書室</p> <p>ア 生徒の「読みたい」「知りたい」読書環境を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。 ・授業に資する本を推奨するとともに、図書室を積極的に授業で活用する。 <p>イ 英語多読ルーム、多読コーナーを充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語における自発学習環境を整備する。 <p>10 研究・研修</p> <p>ア 令和4年度改訂学習指導要領の実施に向け、各教科で検討研究する。とくに観点別評価の在り方について研究する。</p> <p>イ 研究課題を設定して、全校で取り組む(教育庁指定事業)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの向上(指導部指定) ・生徒の自尊感情と自己肯定感について ・人材育成と自己研鑽をめざし、研修研究を積極的に行う。 	<p>エ・オ 避難訓練は、感染症予防に配慮しながら工夫して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会では感染症対策のため、相談時間を十分確保することが難しかった。 <p>7</p> <p>ア 施設管理、予算執行、サービス管理等の分野で企画室から提案があり、改善につなげた。</p> <p>イ 予算執行では計画的な実施ができ、計画的な執行を行った。</p> <p>ウ 地域住民からの要望に配慮し、樹木の剪定や環境維持に努め、苦情は殆ど発生しなかった。</p> <p>8</p> <p>ア 美化委員と清掃員が連携し環境が保てている。イ ごみの分別は生徒と教員の90%ができていると回答。ウ 修繕等の対応は迅速にできたが、テニスコートの修繕が急務になっている。</p> <p>9</p> <p>ア 各教科から、授業で推奨する書籍をシラバスに掲載するなど工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策として、消毒や清潔感の維持に努め、図書館教育を維持した。 ・授業での図書館活用は、英語、国語、社会、キャリア科目等で活用された。 <p>イ 多読用図書の更新が必要となっている。</p> <p>10</p> <p>ア 観点別評価について、全教員で取り組み全教科がまとめ発表した。</p> <p>イ 研究を目的とした先進校視察等は、中止になった学校が多く、思うように実施できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自尊感情の研究」では地歴公民科と「人間と社会」で研究授業を行って研修センターからの視察を受けた。 	<p></p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p>

※①は地域に依頼した『学校評価アンケート』、②は生徒による『授業評価』

次年度の課題

- 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、「わかる」授業や「できた」といえる授業に取り組んでいく。
- 2 ICT 教育及び ICT 機器の利用を全面的に推進していく。
- 3 新学習指導要領実施にともなって、授業と評価の一体化に取り組む。
- 4 英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
- 5 進学指導のための「みのりゼミ」や講習会を推進し、生徒の多様な教育ニーズに応じていく。
- 6 生徒の興味・関心や進路に応じた、キャリア教育科目の整理再編について着手する。
- 7 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
 - ・目標 中退率 5%未満、卒業者 毎年 180 人
 - ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。
- 8 ボランティア活動の拡充を図って、地域と連携した活動を展開していく。
- 9 部活動を活性化して、加入者の増加をはかり、活気ある学校づくりに取り組む。
- 10 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
 - ・教育相談部を軸となって、外部専門家との連携や専門性の確保に努め、困難事例の解決にあたる。
 - ・みのりの場の運用について再検討し、生徒の幅広いニーズに応じるよう試みる。
- 11 生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・70%台であった授業出席率を 75%に向上させる。
- 12 アクティブ・ラーニングをはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、本校のグランドデザインに基づき、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
- 13 生徒の自尊感情や自己肯定感について、調査研究を行う。その取組を踏まえ、教育活動で生徒の自己肯定感の向上を図るよう企画する。
- 14 保護者との連携を強化し、本校の教育活動を正確に伝えるよう努力する。
- 15 災害対策として、夜間を含めた対策など、関係各部署や地域と連携した取組を行っていく。
- 16 経営企画室員と教育系職員の連携協力体制を緊密化し、効率的な学校運営を行っていく。